

平成 27 年度 農山漁村女性・シニア活動表彰 受賞個人・団体 活動概要

最優秀賞(農林水産大臣賞)

A. 女性地域社会参画



キムチづくり講習会(左から2番目が講師の塚田さん)

塚田 とよ子 埼玉県熊谷市

つかだ とよこ

昭和 48 年に結婚し夫の両親と農業に従事。平成 10 年に県下 2 番目の無農薬・減化学肥料栽培認証を受け、安全・安心な野菜作りに取り組む。13 年オープンの「道の駅めぬま」では、開発した「ねぎみそまんじゅう」が一番人気に。14 年～農業委員となり、「農業女性の代表」としての意識を強く持ち活動。17 年までの 4 年間で家族経営協定締結 54 組の実現に尽力。教育委員会と連携したねぎの食育活動や地元農産物の学校給食への導入、麦産地維持のための「長井南部営農組合」の設立(18 年)、協定面積田 101ha、畑 15ha の「長井南部地区資源保全向上活動組織」設立(24 年)に深く関わる。女性組織の「妻沼ふれあいセンター女性部」の代表など多くの会で活躍し講演会講師も数多く努めている。現在は、5 期目の農業委員として婚活イベントにも取り組むなど、その活動は、地域への貢献度が高く、他の農業者や農業委員の模範となっている。

最優秀賞(農林水産大臣賞)

A. 女性地域社会参画



大地を耕し、農業人生一筋

三原 典子 香川県丸亀市

みはら のりこ

昭和 44 年に結婚し就農、59 年に女性一人で 1 ha の農地を守るため農業機械士の免許を取得。若い頃から、婦人会や J A 生産部会・女性部、生活研究グループ等に積極的に関わり 40 歳で J A 女性部の部長に。介護ヘルパー 2 級を活かした高齢者助け合い組織の立ち上げや地場農産物を提供する「地産の会」のなど、地域への貢献力も高い。14 年から旧飯山町農業委員、25 年からは丸亀市農業委員となり副会長に就任、耕作放棄地解消活動など広く農業振興に尽力。県においては、16 年から香川県農業士となり、翌年からは県農業士連絡協議会副会長として後継者育成に尽力。県の男女共同参画審議会、農業・農村審議会、食の安全推進委員会など現在も 12 の審議会などの委員を務め、農業女性の立場にたった社会参画を行っている。

最優秀賞(農林水産大臣賞)

B. 女性起業・経営参画



商談会で加工品を P R (左が伊藤さん)

伊藤 恵子 宮城県美里町

いとう けいこ

平成 13 年に農家レストラン「はなやか亭」を開業、18 年には郷土料理や精進料理・餅づくし料理を提供する農家レストラン 2 号店「白山堂」を開業し 21 年まで営業した。22 年に従業員の雇用安定と経営体制の強化のため、「株式会社はなやか」を設立し代表取締役となった。県単事業を活用し農産加工施設併設の農家レストラン「菜園レストラン野の風」を開店。25 年には年間販売額 1 億円を達成した。現在もスーパーやデパート、駅中などで農産加工品の販売、ディサービスにも進出するなど新たな事業を展開。17 年に家族経営協定を締結し、自身も認定農業者。21 年には宮城県指導農業士会副会長に就任し、11 年に農業委員公選により町初めての女性農業委員に選出、26 年からは、全国女性農業委員ネットワークの会長に就任し全国的に男女共同参画を推進。講演や視察(26 年は年間 400 人)も多く、社会参画も果たしつつ全国女性起業者の牽引役として貢献している。

平成27年度 農山漁村女性・シニア活動表彰 受賞個人・団体 活動概要

有限会社 袖冬庵 徳島県那珂町

ゆづげんがいしゃ ゆとうあん

木頭ゆず産地の農家女性達がゆずの加工製品化のため昭和57年に立ち上げ平成2年に法人化した(株)袖冬庵は、地域面積の9割が山林という厳しい条件の中、女性起業として発展している。榊野代表は、経営者としてのコミュニケーション能力により、農業以外の商工・異業種・流通・行政・大学などの人脈を幅広く培い、法人経営を進展させ、平成18年度の経営継承時に比べ、現在では売上額を約4倍(480万円→1800万円)に伸ばした。ポン酢やゆず味噌、「かんたんおかずシリーズ」の開発や都市との交流拠点の袖冬庵カフェ「くるく」を開設し、「くるく」は、高齢者の交流や各種イベントなど地域の重要拠点となっている。最近では加工受託にも取り組み、売上げだけではなく地域内外の農業者の商品開発も支援。更に地域や産地の状況を俯瞰的に見ながら、「木頭ゆず」産地の進展に向けて、木頭ゆずクラスター協議会のリーダーとしての手腕も発揮している。

最優秀賞(農林水産大臣賞)

B. 女性起業・経営参画



農村女性視点のsmallビジネス

農事組合法人 畦道グループ食品加工組合 大分県日田市

のうじくみあいほうじん あぜみちぐるーぷしょくひんかこうくみあい

昭和50年頃結成した生活改善グループ「畦道グループ」が母体となり、61年に「農事組合法人畦道グループ食品加工組合」を設立し、今では、小麦粉をベースに様々な食材を混ぜた「かりんとう(大豆、よもぎ、紫芋、牛乳、かぼちゃ、ごま、さつまいも、コーヒーなど)」や米粉を使った「かりんとう」を製造販売。様々なイベントや物産展に参加しながら「かりんとう」を販売促進、平成2年にはシカゴの食品見本市、21年には「大分県うまいものフェア in 上海」に出店した。かりんとう作りを通じて子どもたちとの交流も行う。組合員の家事と農業との両立を目指し、労働条件の明確化(労働と休憩時間と時間給等)と社会保障の整備(労災保険・失業保険・PL法対応保険)等に取り組む。13年にはJR天ヶ瀬駅前に開設された販売所「かあちゃんの元気茶屋『一番列車』」の起業にも参加し、農産物などの展示販売、だんご汁定食や麦とろ定食の提供など積極的な起業活動を展開している。生涯現役をモットーに、元気の輪を広げ、地域の活性化を目指している。

最優秀賞(農林水産大臣賞)

C. シニア起業・地域活性化



「かりんとう作り」で生涯現役!

海行原ふるさと愛好会 熊本県荒尾市

かいごぼるふるさとあいこうかい

海行原ふるさと愛好会は、定年前後の幼なじみを中心に賛同者を入れて平成22年結成。耕作放棄地や荒廃地を菖蒲園やソバ栽培、オリーブ園としてよみがえらせ、竹林も整備。よみがえった農地は、無償貸出しや機械利用等の指導を行い、会が作付した農産物の収穫祭、里山マルシェ等消費者との交流も盛んに行われ、地域が活気づいている。また、会員による漬物工房やソバの食事処の開店、空き家整備による地域の交流の場の提供等、会の取組みは地域住民に大きな影響を与えるだけでなく、新聞や広報で取り上げられている。農産物の生産販売は、消費者をほ場に呼び収穫する独自の販売方法をとっており、20aのトウモロコシは650名参加し4千本が完売、タマネギは260人が参加し1,300kgが完売した。会の取組みは、農地の有効利用や地域の実情を捉え創意工夫による新たな販売方法の導入等で地域に大きく貢献している。

最優秀賞(農林水産大臣賞)

C. シニア起業・地域活性化



消費者自ら玉ネギ収穫・購入

平成 27 年度 農山漁村女性・シニア活動表彰 受賞個人・団体 活動概要

優秀賞(経営局長賞)

A. 女性地域社会参画



公開講座にて郷土料理を伝承

佐々木 悦子 岩手県宮古市

ささき えつこ

自らの体験をもとに、農村女性の過酷な労働環境の改善の必要性を感じ、地域の女性が楽しく勉強できる場として、昭和 38 年に地域全戸(約 70 戸)加入の「腹帯母親クラブ」を設立。子供達の食生活改善を目指し、月 1 回の料理教室をはじめ、農村生活の改善、環境美化、食文化の伝承等、リーダーとして、66 年間地域社会活動を実践。平成 3 年に自宅の納屋を改装、菓子製造許可を取得し郷土菓子の製造・販売を開始。8 年には地域特産の梅を使った「梅大福」を開発して、岩手県「食の匠」(第一期)に認定。25 年には後継者が「花ひゅうず」で「食の匠」に認定されるなど技術の継承にも努めている。現在も市の公開講座や小中学校の郷土料理体験の講師をつとめ、食の匠同士の技術交流への参加している姿勢は「食の匠」や女性起業の模範であり、生涯現役を实践されている。

優秀賞(経営局長賞)

A. 女性地域社会参画



行事食を考える美大生と子供達

松川村生活改善グループ連絡協議会 長野県松川村

まつかわむらせいかつかいぜんぐるーぶれんらくぎょうざかい

村内の 13 生活改善グループの 143 名がまとまり、39 年に松川村生活改善グループ連絡協議会を設立、現在も 41 名と 50 年以上活動を継続。農産加工、農産物直売所の開設、「そば処・せびあ」の開業等、女性を中心となり地域農業の振興、地域の活性化を図った。また、メンバーが、農業委員や農協の理事、議会議員、区長など方針決定の場に登用されるなど地域社会に参画。更に、村の行事食を伝えるため、平成 24 年から村内の知識人や高齢者から聞き取り調査をし資料を作成。これを「絵本」で次世代に伝えようと武蔵野美大の学生に昭和 30 年代の村の暮らしを理解してもらいながら、編集委員会を 30 回、役員会を 50 回開催し、「とんすけとこめたろう」が平成 26 年に完成。村内の小中学校、保育園、公共施設に 100 冊寄贈、夏には、美大生と共催で七夕とお盆料理を親子で作るワークショップも開催するなど農業体験や食農教育活動、地域の祭事や行事、旬の行事食等の活動を展開中。

優秀賞(経営局長賞)

A. 女性地域社会参画



牛への餌やり風景

山本 順子 長崎県平戸市

やまもと じゅんこ

昭和 57 年に結婚後、畜産経営(肉用牛 7 頭)に参画。平成 3 年に青年短期海外研修で行ったヨーロッパの畜産から大規模経営に触発され牛の増頭を開始。放牧等を活用の省力経営を行い、現在は肉用繁殖牛 53 頭、放牧地 300 a の肉用牛繁殖専業経営を確立。9 年に生月町で第 1 号の認定農業者、10 年に第 1 号の家族経営を締結、現在は 81 名が締結するなど、女性農業者として地域農業を牽引。10 年に簿記グループ(生月和牛研究会)、26 年に生月和牛ヘルパー組合の設立及び運営に尽力。さらに、グリーンライフアドバイザー(H6~H9)、農業士(H10~H21)、農業委員(公選、H24~現職)を歴任し、中学校の体験学習や農大生の農家研修受け入れなど、農業の振興、農村における男女共同参画の推進、担い手育成に取り組んでいる。

かーちゃんのカ・プロジェクト協議会 福島県飯舘村

かーちゃんのちから・ぶろじえくとぎょうざかい

原子力災害により、避難生活を余儀なくされた飯舘村や葛尾村、浪江町等の阿武隈地域は、農村女性らの農産加工・販売活動が盛んであったが避難先ではその場がなかった。そこで、23年夏頃から、渡邊とみ子氏らと福島大学が連携し県の事業を活用して23年10月に「あぶくま茶屋」を整備、24年1月に「かーちゃんのカ・プロジェクト協議会」を結成。視察・研修、調理や販売、原価計算等のノウハウをつかみ「あぶくま御膳」等を開発し販売。またあぶくま茶屋では、イベントを開催し避難者間及び地域住民との親睦がはかられている。更に協議会の活動はブログやfacebookにより全国に発信、全国300名以上のサポーターが支援。協議会の活動が、原発事故に伴う避難で県内外に離散した阿武隈地域の農村女性らをつなぎ、ともに汗を流し、笑える場となっており、被災者の協議会のメンバーが被災者を支援し、支援された被災者が元気をもらい、手伝いをするなどの好循環が表れている。代表の渡邊氏は全国各地で講演するなど積極的に協議会活動を紹介、国内外からの視察も増えている。

優秀賞(経営局長賞)

B. 女性起業・経営参画



秩父農工生へ凍み文化の継承

坂本 久美子 群馬県桐生市

さかもと くみこ

埼玉県出身の坂本氏は、昭和48年に黒保根村に夫とともに新規参入し、シクラメン及びアジサイなどの鉢花生産並びに紫陽花の育種事業を通じて経営を発展させてきた。国際園芸博覧会「フロリアード'92」では品種登録した「ミセスクミコ」が金賞を受賞、現在もオリジナル品種による鉢花生産が経営の柱である。平成元年に(有)さかもと園芸を設立し取締役となり、18年に家族経営協定締結、19年に夫が大病を患って以降は、自らが経営の先頭に立ち会社を運営。次女夫婦へ技術や思いをバトンタッチする準備を進めている。地域社会活動では、12年～現在まで農業委員として担い手育成や中山間地域農業の振興、学校や地域で花壇づくりや稲作の栽培体験などの食農教育活動の推進を図るとともに、「桐生みどり農村女性会議会長」として、地域農業の発展と男女共同参画にも尽力している。

優秀賞(経営局長賞)

B. 女性起業・経営参画



夫、次女夫婦と共に

南アルプス特産品企業組合・ほたるみ館 山梨県南アルプス市

みなみあるぶすとくさんひんぎぎょうくみあい・ほたるみかん

昭和49年にサクランボの有効活用から始めたジャム作りから発展し、平成11年に生活改善研究会のメンバーが中心となり、「あやめの里特産品加工組合」が発足、16年には同組合を母体に「南アルプス特産品企業組合・ほたるみ館」を設立し137名で活動を展開中。女性起業の先駆的な存在として40年にわたり、地域農業の振興や活性化を担っている。同組合は、農産物の生産・加工・販売の各部会で組織され、毎月運営会議を開催し各部会の連携を確保。農産加工品は、原材料に地元農産物を使用、特産品開発などの努力を続け多くの商品を販売。ジャムや味噌、梅漬は甲斐路の認証食品となるなど、品質の高い商品づくりを実践。さらに、消費者対象の体験学習会や学校給食への食材や行事食を提供など、食育と伝統文化の継承活動を積極的に行い、地域農業への理解促進にも大きく貢献。

優秀賞(経営局長賞)

B. 女性起業・経営参画



毎週土曜日開催のほたるみ館・朝市にてお客様と

平成 27 年度 農山漁村女性・シニア活動表彰 受賞個人・団体 活動概要

優秀賞(経営局長賞)

C. シニア起業・地域活性化



旬の味を笑顔でお届けします!

旬彩工房 きれんげ 島根県大田市

しゅんさいこうぼう きれんげ

「旬彩工房 きれんげ」は、平成 19 年 4 月に結成されて以来、弁当・惣菜・菓子製造などに活発に取り組み、女性・高齢者の活躍の場と経済活動への発展の両面で成果を上げている。「旬彩工房 きれんげ」の成功の要因は、優れたリーダーと役員の存在、会員の職歴も活かした組織体制・役割分担の確立、会員一人一人が経営に参画し、組織的に経営感覚が高かったこと等がある。当団体は、経営・運営面では完全に独立しているが、「JAしまね石見銀山女性部旬彩工房きれんげ」であることから、JAと連携し、地産地消や食育の推進、地域内外への食文化の発信、JA女性部の若手組織であるフレッシュミズ部会の講師など、地域の多様な活動や女性の人材育成に貢献。さらに、JAの営農部門や産直店舗部門との連携では、規格外農産物を活用した新商品開発を行い、地域の農業振興に貢献している。

優秀賞(経営局長賞)

C. シニア起業・地域活性化



女性起業家としてキラキラ輝く!

竹の子グループ 長崎県佐世保市

たけのこぐるーぷ

昭和 30 年代から松山生活改善グループとして活動し平成 2 年に加工所建設を機に「竹の子グループ」と改名、12 年には自己資金で直売所「田舎のより道」をオープン。その後、近隣の大型農産物直売所「わくわくふれあい市」や A コープ店にも農産物加工品、郷土料理や寿司などを出荷し独自のリーフレットを作成して地元以外にも販路を拡大。また、直売所の若手会員に対し地元農産物を使用した郷土料理の伝承を行い、ボランティア活動として小中学校ではゲストティーチャーとして講義を行い、食の大切さを子供達に伝えるなど地元の様々な年代を対象に地元農産物を活用しながら地域活性化の取組みを行っている。さらに、長崎県生活研究グループ連絡会に所属し、県内の郷土料理を集めたレシピ集の作成や、地域活動である「わざよせ交流会」を開催するなど、県下での活動も積極的に行っている。

優秀賞(経営局長賞)

C. シニア起業・地域活性化



奄美大島地区生活研究グループ員集合

奄美地区生活研究グループ連絡協議会 鹿児島県奄美市

あまみちくせいかつげんきゅうぐるーぷれんらくきょうぎかい

「奄美地区生活研究グループ連絡協議会」は、平成 14 年度に名瀬地区と大島南部地区の連絡協議会が合併し、会員は、5 島のうち 3 島(奄美大島、喜界島、加計呂麻島)から構成。奄美の食に関する知識や技術を後世に伝承したいと、平成 15 年度から「食の伝承講座」を開催し延べ 3 千人が参加、毎年の講座を機関誌「あまみ加那」としてまとめ情報発信している。農産加工活動や農産物直売所経営では、協議会の中から、10 グループが起業、売上では、県内女性起業のトップ 20 に入る法人が 3 グループある等女性起業をリード。離島の不利な条件を克服し、豊富な地域農産物を活用した起業活動により、農業振興や雇用の場の創出、地域経済の活性化に大きく貢献。27 年度には、加工業者、ホテル等の異業種を交えた「あまみならでは“食”魅力アップネットワーク」の設立に尽力するなど奄美地域における“食”推進のキーパーソンとして大きな役割を果たしている。

富原婦人林研クラブ 岡山県真庭市

とみはらふじんりんけんくらぶ

昭和56年に結成された富原婦人林研クラブは、有数の林業地である真庭市富原地区において、優良材生産に向けた間伐・枝打ち技術の研修・林業経営での帳簿管理などの勉強会を開催し、林業の知識・技術を得ることで女性の林業経営参画を34年の長きにわたり継続。また、山野草の知識を深め、山の恵みを活かして約60種類のレシピ作成や、農業生産法人と提携し薬草料理の普及、加工品開発等に取り組む。当クラブが商品開発した山野の「クス」と地元名産のお茶を活用したブレンド茶は、地域特産品として定着するなど農山村の活性化に貢献。年間約40回の集会を開催し、出席率は約8割と主体的かつ積極的な活動を行っている。さらに、高校生への環境教育活動を通しての後継者育成や、建築会社と連携した「森林バスツアー」の受入による県産材の需要拡大等、幅広い活動を実践するなど地域林業の振興及び農山村の活性化に大きく貢献している。

恵那こぶしの会 岐阜県中津川市

えなこぶしのかい

平成9年に設立された恵那こぶしの会は、森林や林業に関心がある20代～70代の女性24名を会員に、森林教室や郷土料理の体験等を通じて、いろいろな世代との交流、都市住民や学生などとの交流を図り、地域の魅力の再発見、郷土料理の伝承、地域の魅力の発信をしている。中津川市、加子母地区の森林組合、製材所、林業グループ等の団体や企業が行う森林整備のイベントや、全国の木造建築を学ぶ学生が行う合宿等において、朴葉寿司や里芋餅など恵那地域の伝承料理の手作り体験を行い都市住民や学生が森林林業や山村文化への興味を持つ契機となっている。森林教室は、小学生を対象に年2回行い、植生や地質の専門家による森林教室や地域の木を使ったクラフト体験などを実施し、将来を担う子どもたちが森林・林業に興味を持つきっかけを作っている。

農事組合法人 吾妻農産加工組合 長崎県雲仙市

のうじくみあいほうじん あづまのうさんかこうくみあい

吾妻農協婦人部の役員が働き掛け、補助事業を活用し加工所を建設、婦人部員一人ずつ出資して昭和56年に「農事組合法人吾妻地区婦人部農産加工組合」を設立。現在はJA島原雲仙吾妻女性部193人が母体となって加工部員12人を支えている。販路拡大、就業条件の整備、若手人材の確保と育成、加工所の衛生管理などの確かな対応を行いつつ加工活動を35年継続している。顧客の高齢化に伴い、味噌などの購買量が減少し販売が伸び悩んでいるため、味噌ジャン、酢味噌の開発や地元企業と共に新商品開発にも取り組んでいる。更に小中学校からの職場体験受入れ、県内外、海外からの視察も受ける中、「女性起業活動」によって責任感と自立力、そして社会性とJA女性部としての結束力が高まったことを視察者に伝えるなど、女性起業活動のモデルとなっている。

林野庁長官賞

A. 女性地域社会参画



やまんばんあばの薬草料理教室

全国森林組合連合会長賞

A. 女性地域社会参画



学生さんとの朴葉寿司作り体験

全国農業協同組合中央会長賞

B. 女性起業・経営参画



先代からの思いをつないで35年

平成 27 年度 農山漁村男女共同参画優良活動表彰 受賞個人・組織 活動概要

I. 次世代を担う若手地域リーダー部門

農林水産大臣賞



山から家までのネットワーク活動(前列左端が原さん)

原 薫 長野県松本市

はら かおる

原氏は、(株)柳沢林業取締役として、地域林業を支える認定事業体を経営、持続可能な森林づくりと地域から信頼される会社を目指している。若手社員及び若い女性を積極的に雇用している。5つの経営理念「森づくりに貢献する」、「木と人の関わりを提供する」、「新たなサービスを確立する」、「働きやすい労働環境」、「地域の信頼を永続させる」を掲げ、7つの行動指針「安全第一」、「丁寧で美しい仕事」、「知的・美的労働」、「自社指標」、「男女協働」、「誇りある振る舞い」、「社員の幸せ」を決定し、実行している。26年から地域のカラマツ林業を振興するため素材生産者、建築士、工務店、製材工場、家具工房、行政からなる「ソマミチプロジェクト」を立ち上げ、「見学ツアー」、銀座や大型商談会でのPRを展開。また、ラジオ、TV、講演等、全国各地で普及活動を実施している。更に猟友会に所属し、シカ等の捕獲をにより有害鳥獣対策にも尽力。県内外での活動を通じて、林業女子会でも中心の人材として、若手の女性林業者の信頼が高い。現在林政審議会委員。

農林水産副大臣賞



ハウスでアスパラガスを収穫

江崎 都 福岡県大川市

えさき みやこ

平成20年に実家に戻ったが米・麦・大豆の土地利用型農業は継がず、21年、父親から農地20aを譲り受け、認定就農者となり、国の補助事業を活用しパイプハウス15aを新設、J A福岡大城アスパラ部会に所属、22年にアスパラガスを定植し農業経営を開始した。24年に両親と3人で家族経営協定を締結し、農業者年金にも加入。J Aや普及センターでの栽培講習会やパソコン簿記研修会等に積極的に参加し、25年、26年と2年連続でJ A福岡大城アスパラ部会(部会員80名以上)単収第2位で表彰された。さらに、25年に父親から農地を借りて、新たにパイプハウスを増設し、アスパラガス栽培面積を拡大し、現在では、5人の女性をパートとして雇用し雇用型農業経営を展開中。更に27年4月から佐賀大学大学院の「農業技術経営管理士」育成講座を受講し地域のリーダー的農業者を目指している。27年8月に認定農業者となり、同年8月に大川市男女共同参画推進協議会委員に任命された。

農林水産大臣政務官賞



子供たちはドキドキ・ワクワク♡

ブルームネット 花育部 千葉県君津市

ぶるーむねっと はいなくぶ

平成21年度より活動を開始している「ブルームネット花育部」は、君津市の特産品であるカラーの生産者団体「ブルームネット」の女性部で構成員は4人。「花育部」が主体となって、年間9～13回花育講座を地域の幼稚園児や小学生を対象に実施しており、5年間に花育講座に参加した子供たちは1,200人を超える。花育部の特長は、①母体となる生産者組織に対して、女性メンバーが花育プロジェクトを提案し、承認を得て自らが主体となって活動を実践していることである。②さらに活動が地域に認められ、地域の2か所の公民館活動の一環として開催されている。③地元J Aとも連携し、J A農業祭の場でも取り組み始めるなど、活動が地域に広まりを見せている。④小学生対象から幼稚園児にも花育の対象者が拡大し、幅広く貢献しているなどである。これらを通じて花の消費拡大や子ども達の心を育み、更に後継者育成や地域農業の振興を目指している。

II. 組織における女性登用部門

都城市女性農業委員「きらり会」 宮崎県都城市

みやこのじょうしじょせいのうぎょういん「きらりかい」

都城市女性農業委員「きらり会」は、平成18年に旧1市4町の農業委員会が統合され女性農業委員が5名になったことを契機に発足し現在は7名（選挙委員3名、選任委員4名）。「きらり会」は、女性農業委員の登用活動だけでなく、「きらり会」独自の発案により、【新規就農者の就農を祝う会】を平成18年より開始し、本年度で10回目を迎えた。「祝う会」では、新規就農者を手作り料理でもてなし、就農宣言を行い、地域農業の貴重な担い手として市長をはじめ関係者で温かく門出を祝っており、既に100名を超える新規就農者及び配偶者、家族を祝ってきた。都城市女性農業委員「きらり会」の地域に根ざした先駆的な取り組みは、県内の女性農業委員のネットワークにも大きく影響を与えており、女性農業団体で構成する「北諸県農村女性連携会議」の活動も牽引している。

栃木市農業委員会 栃木県栃木市

とちぎしのうぎょういんかい

栃木市農業委員会の女性農業委員は平成27年9月現在、6名（2名は選挙委員、4名は議会選任委員）。女性農業委員が農地転用許可申請に伴う調査委員長を務めたり、新規就農者の支援を行っている。また、女性農業委員全員で組織する「なでしこ委員会」の活動として、女性農業者を対象とした「熱中症予防教室」「農薬の使い方教室」「肥料の使い方教室」「農業機械安全利用教室」などの講座を実施しており、女性農業者の声を聞くことのできる女性農業委員の存在が教室のテーマに活かされている。さらに、学校と連携し、小学生の農業体験学習として、田植えや稲刈り際には、農地の提供や農作業の指導に協力したり、地域イベントに地元食材を使ったアイデア料理を提供するなど、子供の食育や地産地消にも力を入れておりその活動はマスコミにも取り上げられ、広告塔となっている。

西村 ふじ子 長崎県諫早市

にしむら ふじこ

西村氏は、平成20年から農業委員となり、24年から県内の女性農業委員46名で構成される「ながさき女性農業委員ネットワーク」の会長として、女性農業者の経営参画と地域参画を促進し、女性農業委員の資質向上やネットワーク化、女性農業委員の登用に尽力。26年7月の統一選挙後は、女性農業委員が38→48人、女性農業委員登用市町数は、県下21のうち18となった。また、26年には、「ながさき女性農業委員ネットワーク」主催で、「ながさき女性農業者の集い」を企画・開催し、関係機関と連携を図り役員と協同作業で地域リーダーや若手女性農業者などに働きかけを行い150名を参集した。また、地場産品を利用した加工・販売活動や小学生へのそば打ち・まんじゅう作り体験学習も実践。農業経営では、10年に家族経営協定を締結し、環境に配慮した土地利用型農業を実践している。

農林水産大臣賞



新規就農者にエールを送ります！

農林水産副大臣賞



地域における地産地消の推進

農林水産大臣政務官賞



女性農業者のネットワーク化を！